

ならちゅうしん経営研究会 例会報告
第 313 回 研究会（県外研修）

日 時 平成 29 年 6 月 23 日(金) ～ 24 日(土)

場 所 県外視察 熊本県

内 容 第 1 日目 6 月 23 日(金)

1. 被災企業視察 株式会社さくらや食産
(熊本県阿蘇郡西原村布田 1492)
食肉加工、販売
2. 被災地視察 熊本城 城彩苑
(熊本市中央区)
3. 異業種交流会 協同組合たまなスタンプ会・熊本中央信用金庫
(熊本県玉名市)
講演
講師 協同組合たまなスタンプ会 理事長 梶田武志様
テーマ「地域社会との連携・・・商店街と金融機関」

第 2 日目 6 月 24 日(土)

4. 被災地視察 阿蘇神社
(熊本県阿蘇市)
5. 被災地視察 大野勝彦美術館
(熊本県阿蘇郡南阿蘇村)

今年度の県外視察研修は、期初の計画通り、熊本県への県外研修を実施いたしました。

(熊本地震について)

平成 28 年 4 月 14 日午後 9 時 26 分、熊本県熊本地方を震央とする、震源の深さ 11 k m、マグニチュード 6.5 の地震（前震）が発生し、益城町で震度 7、熊本市・玉名市・西原村で震度 6 弱を観測しました。その 28 時間後の 4 月 16 日午前 1 時 25 分には、同じく熊本地方を震央とする、震源の深さ 12 k m、マグニチュード 7.3 の地震（本震）が発生し、西原村と益城町で震度 7、熊本市で震度 6 強、玉名市で震度 6 弱を観測しました。マグニチュード 7.3 は、平成 7 年 1 月に発生した阪神・淡路大震災と同規模の大地震です。当初、14 日に発生したマグニチュード 6.5 の地震が本震と考えられており、その後に発生したものは余震と思われていました。その為、16 日未明の本震発生時に

は一時的に帰宅されていた人が被災するなど、被害が拡大しました。

一連の地震による人的被害は、地震による直接死が 50 人、関連死が 170 人、負傷者が 2,753 人、最大時の避難者数が 183,882 人と発表されています。建物や施設の被害は、住宅の全壊が 8,697 棟、半壊が 34,037 棟、一部破損が 155,902 棟確認されており、また公共建物の被害が 439 棟確認されています。家屋の被害は建築基準法が改正された昭和 56 年以前に建築された古い木造家屋に集中しており、九州では台風対策のため重い瓦を使う住宅が多い点も被害を拡大させました。そして被害総額は最大 4.6 兆円に上ると推計されています。

(株式会社さくらや食産視察)

くまもと阿蘇空港のすぐ近くの西原村に位置します株式会社さくらや食産様を視察させて頂きました。まず代表取締役の櫻木康男様より事業内容や地震発生時の対応、食肉加工工場、店舗の復旧についてお話を頂きました。その後、食肉加工工場内を見学させて頂きました。加工工場内は衛生管理が行き届き、社員さんが丁寧に作業をされており、コストが上がっても、安心安全な良い商品を消費者にお届けするという社長様の経営理念を強く感じる事が出来ました。併設する小売店舗は美味しいお肉が安く手に入るとの評判で多くのお客様で賑わっており、参加者の皆様も沢山のお土産を購入されていました。



(熊本城視察)

熊本城は、太閤豊臣秀吉の重臣として有名な加藤清正が慶長6（1601）年より7年の歳月を費やして築城した名城で、大阪城、姫路城とならび日本3名城に称されています。その後、加藤家は寛永9（1632）年に改易され、以後、熊本は細川家が11代、240年に亘り54万石を統治しました。熊本城は西南戦争の際に天守と多くの櫓が焼失しました。現在の天守閣は昭和35（1960）年に、鉄骨鉄筋コンクリート造で外観復元されたものです。

熊本地震により最大震度7の激震を2度受けた熊本城は、石垣全体の約1割が崩落し、約3割が修復する必要があり、20年の歳月と600億円超の費用が復興に要するとのことです。参加者一同、加藤清正公を奉った加藤神社より再建中の天守閣を望み、その後、熊本城のふもと、桜の馬場に位置する銘店街、城彩苑を散策しました。



(協同組合たまなスタンプ会との異業種交流会)

当日のお宿は、熊本中央信用金庫様の紹介を受けまして玉名温泉竹水苑さんに宿泊させて頂きました。そこで、長年地域商店街の活性化に取り組まれている協同組合たまなスタンプ会様との異業種交流会を行いました。たまなスタンプ会様よりは、靱田理事長をはじめ4名の方にご参加頂きました。まず最初に靱田理事長より、同会が運営するハローポイント事業について、ご講演を頂戴しました。ハローポイント事業は、商店街と、玉名市、熊本中央信用金庫、地域の各種団体が連携した事業で、平成8年4月に設立され、会員商店数125会員、会員数43,500人を数え、単なる買い物ポイントだけではなく、福祉・環境・教育・安全等、市民生活の質の向上に役立てるサービスを付与した仕組みです。この取組は、総務省からも注目され、国が実施する「マイキープラットフォーム構想」のモデルになったとのことです。講演後は、当研究会の会員の皆様より多数の質問がなされ、意義のある異業種交流会となりました。その後の懇親会では、たまな

スタンプ会の皆様に加えて、熊本中央信用金庫様より、沼田理事長、岡本常務、石原支店長の3名にもご参加頂き、大いに親睦を深めることが出来ました。



(阿蘇神社参拝)

阿蘇神社は、熊本県阿蘇市にある神社で、肥後の国1宮に列せられる官幣大社です。創立は孝霊天皇9(紀元前282)年と伝えられ、2300年の歴史を有しており、全国に約450社ある「阿蘇神社」の総本社です。古代から有力氏族である阿蘇氏が大宮司を務め、現在に至っております。

阿蘇神社も昨年の熊本地震において、大きな被害を受け、楼門と拝殿が全壊し、境内の3箇所の神殿も損壊しました。現在、清水建設の施工により修復工事中で、2022年をめぐりに再建が完了する予定であるとのこと。

参拝後は、湧き水豊かな門前町商店街を散策しました。



(大野勝彦美術館見学)

大野勝彦氏は、昭和19年2月3日、熊本県菊池郡菊陽町に生まれ、高校卒業後は家業の農業に従事されていました。平成元年7月22日、農作業中に機械により両手を切断する大事故に遭われました。入院3日目より“湧き出る生”への想いを誌に表現、さらに2ヶ月目には、その喜びを水墨画に表現されました。翌平成2年2月には、熊本県立劇場にて誌画の個展を開催、平成3年には第9回熊本現代誌新人賞を受賞、その後も数々の賞を受賞され、平成15年7月に、「風の丘阿蘇大野勝彦美術館」を開館されました。

大野勝彦美術館も昨年の熊本地震において、大きな被害を受け、アクセス道路が寸断、休業を余儀なくされました。しかし、大野氏の努力、支援者の協力を得まして、今年4月に再オープンすることが出来ました。館内には、大野氏の誌や絵画が、ところ狭しと展示され、参加者皆様一同、大きな感銘を受けました。



熊本県は、これまでの歴史のなかで大きな地震の被害を受けた記録がなく、「災害の少ない安全な県」を売りにして企業誘致を進めてきたとのこと。また地震に対する警戒心の低さから地震保険への加入率が低く、今回の地震でも被害が保険で救済されない方が多かったようです。「災害の少ない安全な県」を売りにはしているのは、奈良県も同じで、我々、奈良県内企業も決して災害に対する備えを怠ってはならないことを確認出来たのではないのでしょうか。

また、2日間添乗頂きました菊南プラザバスのバスガイドさん松田さんのおしゃべりは最高でした。今回の熊本視察研修が、多くの方のご好意により、充実した研修となりましたことに深く感謝申し上げます。